

産官学連携活動 (2019 年度)

1. 地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

1) 官学連携

■ 公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は、2019 年度は、5/11－7/13 全 10 回、5 講座開講。地域住民、のべ 219 名受講。

■ リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学の協定による高齢者を対象とする授業科目の開放は、2019 年度も実施。受講者は両学期合わせて 61 名。

■ 学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学の協定により、2010 年度より「教員を目指す学生による学生活動支援を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。2019 年度の派遣学生はアシスタントティーチャー 3 名。

■ 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された子ども大学 あげお・いな・おけがわ実行委員会が主催する子ども大学は小学校 4～6 年生まで違う学校・学年の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で大学教員など専門家が分かりやすく教える。

2019 年度は 5・6 年生を対象に 6 月 22 日(土)、7 月 27 日(土)の 2 回を本学で開催し、計)102 名が参加した。

2. 地方自治体との連携事業

2013 年 4 月、地域連携・教育センターが開設し、さいたま市、上尾市、春日部市、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開している。

■ 「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」について

2014 年 7 月 18 日、埼玉県と「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」を聖学院大学及び、ものづくり大学と締結した。これは特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化に関する取り組み・研究について、相互に連携を図り推進するものである。具体的な事業概要は以下の通りとなっている。

・事業概要 高齢化が進む古い団地の活力を向上させるために、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するモデル事業を実施する。入居する学生や子育て世帯には自治会活動に参加してもらうことで、現在の入居者と共に支え合う「共助」の関係を築いていく。

・取り組み状況 本学学生が、2015 年 1 月よりシラコバト団地に入居開始。2014 年度末は 2 名だったが、2015 年度は 8 名、2016 年度は 13 名、2017 年度は 10 名、2018 年度は 8 名、2019 年度は 10 名の学生が自治会活動に参加をしている。

■ 上尾市協働推進課との協働「上尾市内在住外国人の調査」：バッファローあげお(八木規子ゼミ：組織行動論)

(1) 活動の目的と経緯

最近上尾市に住む外国人の数が急増しており、それに対応するために上尾市ではさまざまな支援活動を展開しています。しかし、これらの活動への外国人の参加は少数にとどまると聞き、その理由を明らかにし、どのようにすれば外国人に対して役に立つものとなるか、調査研究を行いました。

(2) 活動内容と実績

以下のスケジュールで調査研究を行いました。

- ①上尾市の多文化共生施策について上尾市市民協働推進課本多氏へのヒアリング
日にち：2019 年 6 月 14 日
- ②団地の自治会活動について上尾市尾山台団地自治会長尾上氏にヒアリング
日にち：2019 年 7 月 19 日
- ③ゼミ内でインタビュー項目、インタビュー実施方法を検討
期間：2019 年 10 月
- ④上尾市国際交流協会(AGA)日本語教室に通う外国人へのインタビューの日程調整
日にち：2019 年 10 月 29 日、30 日

⑤上尾市国際交流協会(AGA)日本語教室に通う外国人へのインタビュー

期間：2019年11月 インタビュー人数：11名

⑥ゼミ内で調査結果の報告と共有

期間：2019年12月

⑦報告書の作成

発行日：2020年3月

■ あげおワールドフェアに参加：フェアトレードチーム「empower」(M. サベットゼミ：国際理解)

(1) 活動の目的と経緯

フェアトレードの仕組みを知ってもらおうと共に、バングラディッシュやネパールで働く女性や子どもたち、発展途上国で暮らす「取り残された人々」への支援を行っています。

(2) 活動内容と実績

特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会の協力のもと、フェアトレードの周知活動と商品の販売に取り組み、10月6日(日)に開催された「あげおワールドフェア2019」(主催：上尾市国際交流協会)での出展に続き、翌月11月1日(金)～2日(土)に行われた本学学園祭「ヴェリタス祭」においてもフェアトレード商品の紹介と販売を行いました。

■ 上尾市のゆるキャラ PR：アッピー応援隊(金谷京子ゼミ：発達心理)

(1) 活動の目的と経緯

2014年より、NPO法人 AGETTO の依頼を受けて、上尾市のゆるキャラ「アッピー」を上尾市内の保育所・幼稚園の子どもたちに親しんでもらうこと、学生が、保育所・幼稚園の子どもたちと交流し子どもたちに喜びを届けることを目的として活動を行っている。

(2) 活動内容と実績

2019年度は下記3か所の保育所で活動を行いました。活動内容としては、上尾市のゆるキャラ「アッピー」とともに保育所を訪問し、大型絵本の読み聞かせ、手あそびうた、じゃんけん列車などを行いました。

①大谷保育所 日にち：2019年6月13日 活動人数：6人

②あたご保育所 日にち：2019年10月30日 活動人数：5人＋児童学科学生約3名

③畔吉保育所 日にち：2019年11月27日 活動人数：6人

■ 埼玉県と連携したこどものあそび場づくり：パワフルキッズ(金谷京子ゼミ：発達心理)

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県から依頼を受け、一般社団法人すくすく広場、シラコバト団地自治会と連携し、上尾市にある県営上尾シラコバト団地の活性化につながる子どもたちのあそび場の提供を行っています。七夕やハロウィンなど季節にあわせたイベントを継続して実施しています。

(2)活動内容と実績

2019 年度は、七夕イベントとハロウィンイベント、クリスマスイベントを下記の通り実施しました。

①七夕イベント 日にち：2019 年 7 月 6 日(土)

こども・親参加者：6 名、ほか住民の方：3 名、ボランティア：13 名

②ハロウィンイベント 日にち：2019 年 10 月 26 日(土)

こども・親参加者：16 名 ボランティア：10 名

③クリスマスイベント 日にち：2019 年 12 月 7 日(土)

こども・親参加者：13 名 ボランティア：14 名

■ 伊奈町で人権講演会を実施：福祉教育について考える会こころの輪「ここ輪」(相川章子ゼミ：精神保健福祉論)

(1) 活動の目的と経緯

「こころの輪(通称：ここ輪)」は、本学で精神保健福祉を学ぶ在校生や卒業生が所属し、精神保健福祉領域における福祉教育活動を行っています。「みんなで学ぼうメンタルヘルス、共に学ぼうリカバリーストーリー」を合言葉に、当事者の方々と一緒に学ぶことを大切にしながら、「誰もが住みやすい地域にしていけること」を目指して活動しています。

(2) 活動内容と実績

2019 年 10 月 19 日(土)、伊奈町人権講座「発達障害と共に生きる～心を伝える～」において、精神障がい者への理解を広める発表と当事者の方によるリカバリーストーリー「精神障害のある人が、それぞれ、自分が求める生き方を主体的に追求する物語」を語られました。当日は 50 名程の来場者があり、会場からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換も行われました。

■ 上尾市との包括協定に基づき実施「大谷地区自主防災啓発事業」

(1) 活動の目的と経緯

上尾市大谷支所と連携し、大谷地区の自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施しています。

(2) 活動内容と実績

2019 年度は下記の通り自主防災啓発事業を実施しました。今年度は、大谷地区自主防災組織連合会よりご提案いただき、地元大谷地区のフィールドワークも開催されました。

①学生対象フィールドワーク

日 時：2019 年 12 月 7 日(土) 9:00 ～ 11:00

主 催：大谷地区自主防災組織連合会、聖学院大学ボランティア活動支援センター

参加者：区長・防災士・市職員 3 名、聖学院大学／学生 5 名・職員 1 名 合計 9 名

実施内容：大谷地区自主防災組織連合会会長と大谷地区の防災士のご案内で、復興支援活動や

防災活動に取り組む学生たちが、大学周辺地域の中でどのような災害が起こり得るのか、それに対してどのような対策ができるのかという視点で大谷地区内を見て回りました。

②活動報告とグループワーク

日 時：2019 年 12 月 14 日(土)14:00 ～ 16:15

場 所：大谷公民館

主 催：大谷地区自主防災組織連合会、聖学院大学ボランティア活動支援センター

参加者：区長・区長代理・防災士・市職員 34 名、聖学院大学／学生 7 名・職員 1 名
合計 42 名

実施内容：

《第 1 部》全体会議・グループワーク「大谷地区の防災力向上について」

進 行：田中繁夫氏(大谷地区自主防災組織連合会会長)

《第 2 部》活動報告等

i)「釜石の復興状況と SAVE の活動報告」人間福祉学科 3 年 布川泰樹

ii)「仙台の復興状況と STEP の防災活動」こども心理学科 3 年 松本一帆

iii)『防災戦隊マモルンジャー「地域の防災意識の向上」』心理福祉学科 2 年 玉之内菖

iv)「台風 19 号被害と復旧ボランティア活動報告」心理福祉学科 2 年 菅野稜真

v)「防災士による活動報告」上尾市大谷地区内防災士

■ 釜石市と共催し釜石の魅力を埼玉で発信：釜石フェスティバル

(1) 活動の目的と経緯

2014 年 1 月 29 日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、埼玉県内において釜石の魅力発信の機会とすると共に、聖学院大学の復興支援活動や釜石との関わりを通してできた繋がりや学びについて、学内外の方々に知っていただく機会として、釜石市との共催で当フェスティバルを実施しました。2015 年に初めて実施して以降 2 回目の開催となりました。

(2) 活動内容と実績

日 時：2019 年 11 月 1 日(金)、2 日(土)両日とも 10:00 ～ 15:00 ヴェリタス祭内にて開催

会 場：チャペル(講演会)・2 号館前スペース(模擬店)・2303 教室(活動展示)

来場者数：1 日目：展示 24 名／釜石ラーメン 100 食販売

2 日目：講演会約 120 名／展示(ミニトーク参加者含む)50 名／

釜石ラーメン 150 食販売

学生実行委員：22 名

運営ボランティア：卒業生 12 名

実施内容：展示、模擬店・物産販売、釜石ミニトーク「釜石の魅力」、浜辺の料理宿「宝来館」女将岩崎昭子氏による講演会「生き続けるということ～宝来館女将が語る 釜石のあの日・今・未来～」と学生実行委員を交えたパネルディスカッション

■ 協定に基づき釜石市からの依頼で実現した釜石市保育士インターンシップ

(1) 活動の目的と経緯

2014 年 1 月 29 日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、釜石市より、「市の保育士が減少傾向にあり、保育専攻の学生に釜石市での就職を検討いただきたい。」という相談があり、総務企画部総合政策課と保健福祉部子ども課との連携し、今年度新たに釜石市内の保育園で保育専攻の学生が希望制でインターンシップを行うことができるツアーを実施しました。

(2) 活動内容と実績

期 間：2019 年 8 月 6 日(火)～8 日(木)

受入先：釜石市立上中島こども園、社会福祉法人愛泉会 かまいしこども園、平田こども園

参加学生：3 名

実施内容：8 月 6 日(火)、7 日(水)の 2 日間、釜石市内のこども園にて、実際に保育士の就業体験を行い、7 日(水)の夜には活動報告会が開かれました。

3. 地域産業界との連携事業

■ 株式会社レパスト・国連 WFP 協会との協働：食堂寄付付きメニュープロジェクト

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県下の SDGs への取り組みを始めている企業や自治体をはじめさまざまな団体との連携を模索し、ともに勉強会などを行いながら具体的なアクションを連携してゆくための緩やかなネットワーク形成を行う。これらを積み上げ人間関係を形成してゆく中で、SDGs 達成のための具体的なアクションを協働で取り組むことができるような、ある程度恒久的なプラットフォーム形成へと繋げていきます。そのため、下記のようなプロジェクトを実施した。

(2) 活動内容と実績

①NPO 法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会、株式会社レパストとの協働のもと、学食で「SDGs メニュー」を提供し、1 食あたり 20 ～ 30 円を国連 WFP を通じて途上国の食糧支援に寄付する企画を実施。

実施期間：2019 年 12 月 9 日(月)～23 日(月)の平日(11 日間)

場 所：4 号館 1 階学生食堂

企 画：食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー、プロジェクト 7 教職員

②「SDGs de 地域創生」カードゲーム公認ファシリテーター養成講座に教員 1 名が参加し、公認ファシリテーターの認定を取得。今後、教育活動などで同カードゲームを用いた SDGs 理解や推進が可能となった。

③2019 年度における上述①の活動と成果を詳しく記録・紹介するとともに、今後の活動への参加呼びかけに活用するため、「SDGs & Seig Newsletter 2019-2020」を発行した。

■ さいたま北商工協同組合との連携事業

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012 年度からさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。毎年継続的に学生の受け入れを実施しており、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できる。

■ 新潟県と学生U・I ターン就職促進に関する協定を締結について

2020 年 3 月 12 日、新潟県と本学は、雇用対策事業として、学生 U・I ターン就職促進に関する協定を締結した。本協定は、新潟県と本学が相互に連携・協力に努め、学生に対し新潟県内の企業情報等を提供するなど就職活動を支援することにより、新潟県出身者をはじめとする学生の U ターン就職及び I ターン就職の一層の促進を図ることを目的としている。

連携事項

- 1) 学生及び保護者に対する県内の企業情報、生活情報等の周知に関すること。
- 2) 学生の U・I ターン就職に係る情報交換及び実績把握に関すること。
- 3) 学内で行なう合同企業説明会等、企業情報提供イベントの開催に関すること。
- 4) 保護者向けの就職セミナーの開催に関すること。
- 5) 学生のインターンシップ受入の支援に関すること。
- 6) その他学生の U・I ターン就職促進に関すること。